

斬新な入試方式の 現状評価と今後

林 篤裕

hayashi@rd.dnc.ac.jp

(独立行政法人 大学入試センター 研究開発部)

(<http://peter.rd.dnc.ac.jp/ice/haifu/>)



センター試験の実施規模

(平成18年度)

- 志願者数：約55.1万人(前年比 -1.9万人)
- 試験会場：721試験場、約8640試験室
- 受験者数：約50.6万人 (91.8%)
- 答案枚数：約350万枚
- 利用大学：594大学 133短大 約120万件データ請求
(大学入学者合計は約60万人)
- 採点業務：
 - 5日間でほぼ読み終える必要性
 - 緻密な確定作業
 - ワゴン：800台、9000枚/台
 - OMR：14台、19000枚/時/台

「敵」と思われがち ← 濡れ衣

- 高校生、入学者、社会
 - 問題を作ってる
 - いじめられた
 - → → 作題部署ではない
- 大学教職員
 - 監督させられている
 - 教員をロボットとしてしか見てない
 - → → 共同実施

組織図

- 定員 約108名

研究開発部は
作題部署ではない

業務

- ア 大学入試センター試験に関し、試験問題の作成及び採点その他一括して処理することが適当な業務
- イ 大学の入学者の選抜方法の改善に関する調査及び研究
- ウ 大学に入学を志望する者の進路選択に資するための大学に関する情報の提供
- エ アからウの三つの業務に附帯する業務

- www.dnc.ac.jp/dnc/gaiyou/gaiyou.html

- 業務方法書
- 中期計画
- 年度計画
- センター規則



統計処理 (概要)

- 作題者に対して統計情報を提供(評価資料)
 - 平均、標準偏差
 - 設問解答率分析図
 - 得点分布
 - 個別対応(作題部会毎)等、...
 - 連関表
- 大学スタッフとの共同作業
 - 合否入替り率
 - 調査・アンケート等
 - 追跡調査
 - ...
- その他、研究等
 - 得点調整
 - ◆ 分位点差縮小法
 - 調査研究：総合試験、高大連携、試験情報の整備、...
 - 研究開発：等化、評価方法、...

略歴(素性)

- 1979年 (S54) 1月：共通第1次学力試験(第1回)
- 1980年 (S55) 1月：共通第1次学力試験(第2回)
- 1980年 (S55) 4月：岡山大学 工学部
- 1984年 (S59) 4月：九州大学 大学院総合理工学研究科
- 1986年 (S61) 4月：川崎医科大学 数学教室
- 1993年 (H5) 4月：岡山県立大学 情報工学部
- 1996年 (H8) 5月：大学入試センター 研究開発部
- 専門：計算機統計学、教育工学
- DNC: 入試に関する研究を行う国内唯一の機関
- 天文学への憧れ
- 転部希望：理学部物理へ
- 居候：垂水研
- 隣人：武谷研
- 総合大学の強みを活かすべき

本セミナー: 受験者の心境

- 実際の入試を受けているよう
- (前日の)多様な講演をタップリ受講
- 資料は何を用いても良い
 - 書籍、書類、インターネット、...
- コンパクトにまとめる
 - ストーリー
- 口頭発表 ← ← ← 今、ココ
- レポート

※[優位点] 事前にトピックは告知されていた
※[欠点] 出来が良くても入学させてはくれない

7

演題(本日のお題)

- 「斬新な入試方式の現状評価と今後」
[案]
- 普通じゃない入試と今後
- 一般選抜ではなく、且つ、推薦でもAOでもない入試の現状と今後
- ユニークな入試方式の現状と今後
- 手の込んだ入試方式の評価と今後

8

本日のお題

- 「手の込んだ入試」と、かけて、
- 「復讐問題」と、とく。
- その心は、
「組織外は言うに及ばず、
組織内でさえ、
なかなか理解が得られません」。
- 「敵」は内外に存在: 挑戦

9

大学の「入試」

- 高校終了段階のアチーブメントテストではなく、受け入れる大学側の要求を基に作成
- achievement: 達成度
- 大学からの「メッセージ」
 - 受験者への
 - 社会への
 - 試験と測定項目
- 何を測ろうとするのか?
 - どうやれば養えるのか?
 - それは高校段階までに養うべき事項なのか?
 - メッセージとして伝わっているか?

10

他大学が続かない

- 九大(21cp、'01)、岡大(MP、'06)
- 愛媛大: スーパーサイエンス特別コース?
- 琉球大: 21世紀グローバルプログラム
- 名工大: 工学創成プログラム('05?)
- 手の込んだ入学: 両者にとって → 次ページ
 - 受験者(高校生)
 - 評価者(大学)
- パテントを取っては?
 - まがい物。設立趣旨を普及させるには。

11

工学創成プログラム(名工大)

- H17('05)かららしい
- 単科大学、学科横断型
- 特異な人材を育成するために「工学創成プログラム」を置き、目的に応じて工学の専門分野の 学問を横断的に学習する定員を設けています。
- <http://www.nitech.ac.jp/anib100/aisatu01.html>
- >> http://www.nitech.ac.jp/o_nyusi/a10/a10_110/a10_110z.html
- >> 工学部第一部アドミッション・オフィス入試(工学創成プログラム)
- 本学では、「工学創成プログラム」において、学生自らが目標を持ち、率先して組み立てた学習計画に沿って、自身に適性を見出し、学びたい分野の専門性を深めていきます。21世紀の社会が必要とする新しい工学文化を切り拓き、世界に通用する創造性・表現力豊かな研究者(技術者)を育成します。
- 本プログラムにおいては、本学の各学科が開講しているすべての専門科目を履修対象とすることが可能で、指名を受けた専属アドバイザー(教授又は助教授)が履修カリキュラム、勉学、進路等のアドバイザーにあたります。
- 指導を受けたい教授又は助教授の指名ができ、学科にある教育プログラム体系を越えて学ぶ履修プログラムを提供します。単一学科の教育プログラムでは履修できない教育プログラムを提供しますので、学びたい専門分野についての明確な意志と勉学に対する強い意欲を持っている学生を受け入れます。

12

手の込んでいる点

- 高校側、受験者
 - 指導のし難さ、指導方法の確立
 - 「模範解答」が不明
 - 進学先のコントロール
- 大学側、評価者
 - 人物評価方法の確立：理解力、思考力、表現力、総合的な学力・能力・資質
 - 選抜の基準の明確化
 - "試験対策ズレ"していない学生
 - 活きの良い学生
 - 考えることが好きな学生
 - 追跡調査の重要性
 - 評価レベルの明示：対高校、受験者
→ → → アドミッションポリシー？
 - 「タフな学生」

13

国際化と英語

- 「国際化」、「コミュニケーション能力」
- 「英語の力」と言われるが.....
- 「自分の考え」を持つことの重要性
- 「中身」を磨くこと。英語は「器」。
- 自国を知ること。説明できること。
- 体験が一番：21cpやMPの学生なら
- 「コミュニケーション能力」って
どうやって磨くの？ 測るの？ ← 私も興味
■ 議論すること、意見を交換することが糧？

14

合格者の不均一性

- DIF:特異項目機能(Differential Item Functioning)
- 項目バイアスを検出するための統計的道具
- 群間差異：地域差、人種差、性差、...
- 21cp: 女性が明らかに多い:今回を最後にしようと思う
 - 外部評価：亀岡、林
 - 名工大でのやりとり：誤解が定着しやせぬか？
 - 受験者へのメッセージ：後年次が心配
- AO入試：評価者の主観を許容する入試
 - 導入した学部の事情

15

理学部進学

- 積み上げ式の学習が必要な学問領域
- 21cp: 現状ではゼロ
 - 外部評価
 - 定員を割くということ：供出学部の考えは？
◆ 学部で対策を立てないのはなぜ？
- MP
 - 理科系がメイン
 - 期待
 - 今後の不安：スムーズな接続の可能性

16

学士教育への「挑戦」

- 「たたかいをいどむこと」
- 勝つこともあれば、負けることもある
- 成功と共に失敗もあり得る
- 実験でもある：
被験(害?)者は学生であり、教員でもあり
- 広辞苑(第4版)
 - ちょう-せん【挑戦】テウ・
 - たたかいをいどむこと。「世界記録に一する」「一状」

17

まとめと今後の展望

- 入試は「メッセージ」
- 「教養」の重要性：これからのキーワード
- 学部横断型：普及させよう
- 理念を浸透させよう：非常にユニーク
- 新しい入試方法、測定方法への挑戦
 - 人的・資金的支援
 - 大学の懐の広さ
- 入試：絶え間ない変化が求められる
 - 受験者側の適応力の強かさ
 - 教育産業のたくましい活動
- 入学前教育

18